

# 基準点ファイルフォーマット説明書

## 1. 適用範囲

本フォーマットは、基準点ファイルに適用する。

## 2. 概要

1. テキストファイル共通フォーマットを適用する。
2. 基準点1点を、1レコードに記述する。

## 3. レコードの出現順序と形式

(IDレコード)

第1レコードは、ファイルの種類を示す。

番号	フィールド名	形式	意味
1	ファイルの種類	A	「GCP_File」

(基準点レコード)

次に、基準点を記述するレコードを任意の数、任意の順序で記述する。

番号	フィールド名	形式	意味
1	点名	A	基準点の名称。
2	種類	A1(opt)	基準点の種類。 「P」 平面位置の基準点 「H」 高さの基準点 その他または省略(「-」) 平面位置と高さの基準点
3	緯度	F	基準点の緯度。ddmmss.s...形式。詳しくは、テキストファイル共通フォーマット説明書参照。
4	経度	F	基準点の経度。dddmmss.s...形式。詳しくは、テキストファイル共通フォーマット説明書参照。
5	標高	F	基準点の標高(m)。
6	ジオイド高	F (opt)	基準点のジオイド高(m) (楕円体高 = 標高 + ジオイド高)。
7	平面位置の精度	F (opt)	平面位置(X及びY)の推定精度(1 )。
8	高さの精度	F (opt)	高さの推定精度(1 )。
9	検証点フラグ	A1 (opt)	検証点を指定する。 任意の文字列 検証点(測地座標を調整に使用しない) 省略(「-」) 基準点(測地座標を調整に使用する)

注意：検証点フラグを指定した場合、調整計算の上では、対空標識のあるタイポイントとして処理される。検証点としても利用しない場合は、そのレコード全体をコメントアウトすること。